

北里柴三郎(1852~1931年、肥後国阿蘇郡):1891(明治24)年破傷風を治療する新しい血清療法を確立。1894(明治27)年にはペスト菌を発見。

高峰讓吉(1854~1922年、越中国高岡):日本初の人造肥料製造を開始。酵素複合体タカジアスターゼの抽出に成功。

山川健次郎(1854~1931年、会津藩):物理学者、日本人初の理学博士、東京帝国大学、京都帝国大学、九州帝国大学総長。

古市公威(1854~1934年、姫路藩):1879年パリ留学、日本の近代土木工学の祖。

田辺 朔郎(1861~1944年、根津愛染町):日本の土木工学者。琵琶湖疏水や日本初の水力発電所の建設、関門海底トンネルの提言。

長岡半太郎(1865~1950年、肥前国大村藩):土星の環の研究に着想を得て、1903年に原子模型の理論を発表。

大森房吉(1868~1923年、越前国足羽郡福井城下)
1901年に大森式地震計を開発。初期微動と震源距離の大森公式などを発表。

志賀潔(1870~1957年、陸前国宮城郡仙台):1897(明治30)年に赤痢菌を発見。

秦佐八郎(1873~1938年、島根県美濃郡都茂村):ドイツの細菌学者エールリヒと共同で、梅毒の化学療法剤サルバルサンを創製。

鈴木梅太郎(1874~1943年、静岡県榛原郡堀野新田村):脚気(かっけ)に有効なビタミンB1を米ぬかからの抽出に成功。

図5 1900年前後に科学分野で顕著な業績を挙げた日本人(抜粋)